



永井隆  
高橋広司



地元徳三  
服部博行



秋月辰一郎  
岡部大吾



古江修一  
中島文博



吉持東吾  
山本翔三



松浦海の世間を捨吉  
高橋裕太



關市のマリア千代 修道女  
中垣美奈

### 「長崎の鐘」の鬼気迫る異様な迫力

岡部耕大の新作「長崎の鐘」の異様な迫力に、心打たれている。もとより、氏の作品はこれまでも常に劇的緊迫と人間的慈悲を湛え、観客の胸を打ってきたのだが、この新作の台本を読みながら、作者のただならぬ志をしきりに感じずにはいられなかった。本作の主人公、永井隆のヒューマンな在りようはかつて映画になり、歌になつて、日本中を風靡した。「長崎の鐘」(1950年製作)、「この子を残して」(83年)などの映画作品があるが、余談ながら「この子を残して」の木下恵介監督は以前、海外メディアに、広島長崎の原爆投下に感想を求められて、「仕方がない」と発言。その軽はずみな言葉を悔いて、この題材を取り上げたのでは、とも言われている。

今、「ついで」題材と書いたが、岡部耕大「長崎の鐘」は題材というより他者性のものではなくて、死者になり代り(と言わんばかりに)、原爆投下の理不尽さ、人と街の被害を目に見えるような鬼気迫る言葉で吐き出していく。永井のカトシリスムと、秋月辰一郎の浄土真宗の双方から生死(しじょう)観も持ち出されるが、といって、重いだけの劇では決してない。「永井先生は楽屋に放り出された浄瑠璃人形のごとくくたいたくなるまで働きよらすとよ」という台詞があるが、ユーモアを含むだけでなく、長崎弁による台詞の応酬は浄瑠璃の修辞のようにリズムカルで、カタルシスをもたらしてくれるはずである。

そして歌謡曲「長崎の鐘」への敬意が私を驚かせた。この嫺々たる大衆的な曲を讃美歌と同格とする氏の柔らかな感性。因みに作曲者の古関裕而、岡部氏の師匠・岡本喜八の墓が「春秋苑」(浄土真宗本願寺派)にあり、岡部宅のご近所なのである。岡部氏の魂はいつも死者とともにあると思われる。

「長崎の鐘」は岡部演劇の新境地となった。

浦崎浩實(劇評・映画批評)

### 舞台『長崎の鐘』推薦状

#### 推薦理由

1945年8月9日、長崎に投下された原子爆弾によって一瞬にして最愛の妻を失い、自らも長年の放射線研究による白血病と被爆の後遺症に苦しみつつ、カトリック信仰に根ざした祈りと数多くの著作を通して「平和」を訴え続けた医学博士・永井隆。

戦争体験の風化と共に「日本核武装論」「戦争のできる当たり前の国づくり」といった議論が次第に市民権を得つつある現代にあって、ひとりカトリック界のみならず真剣に平和の実相を考えている人びと、特に教育関係者、教師や生徒たちに見ていただきたい作品である。

以上の理由から、カトリック中央協議会・広報として、本企画を「推薦」致します。

2009年9月18日

(宗)カトリック中央協議会・広報推薦

### 「長崎の鐘」あらずじ

この物語は昭和20年8月8日の「永井隆」の家から始まります。幸せな家庭、質素な妻とユーモア溢れる会話。研究室の女の子が「先生は昼間も奥さまから抱かれてるのね」といったエピソードを「元寇」の地鷹島生まれの徳三とサチに語る永井隆。家族の衣類はみな妻の手製だった。永井隆の靴下からワイシャツ、オーバーに至るまで、妻がこつこつ丹念に仕立てたものでした。緑は白粉をしませんでした。

その日、緑はここに笑いながら永井隆の出勤を見送りました。永井は弁当を忘れたことに気がついて家へ引き返します。妻の緑は玄関で泣き伏してしましました。永井隆は研究室で取り組んでいた放射線の障害を受けて白血病に掛つていたのです。それが別れてでした。

8月9日長崎に原爆投下。久松シノはその地獄園を語る。三日目、死傷者の処置をして永井隆は家へ帰った。ただ二面の焼灰。台所のあとには妻の緑の黒い塊がありました。傍には十字架の付いた口ザリオの鎖が残っていました。

復員した吉持東吾や古江修一、清水実医師、宮園明、徳三は永井隆に天主堂の廃墟から聖鐘を探し出すことを提案します。ユーモアに富んだ永井隆の励まし。昭和20年11月23日、合同追悼祭での永井隆の弔辞は人々の胸を打ちます。

天主堂の廃墟から聖鐘を探し出し、杉丸太3本を組み合わせた鐘樓に吊り下げ、1945年のクリスマスの夜のミサから再びこの鐘が鳴りだす。50メートルの鐘塔から落ちた鐘は煉瓦の底で割れてはなくなつた。

鐘が鳴る。暁のお告げの鐘が廃墟となった天主堂から焼け野原に鳴り渡る。

永井隆は臨終します。死に顔はかすかな微笑みをたたえて静かでした。永井隆は「浦上の聖人」と呼ばれ、多くの人から驚異の目で見られていました。しかし、本人が執筆した多くの著書からもわかるように、その生き方はとても人間的で、逞しさに溢れていました。多くの人が永井隆を慕って集まって来ます。永井の恩師が「無物処無尽蔵」の軸を持って来ます。戦災孤児の元締め愚連隊の働かずの吾、松浦湯の世間を捨吉と、娼婦の闇市のマリア・千代が永井隆を脅迫に来ます。戦災孤児論争となり、吾と捨吉は永井隆の信奉者となります。千代も永井隆の言葉に心を打たれます。また、被爆医師で永井の直弟子秋月辰一郎との不思議な因縁と対立。ユーモア溢れる二人の想いと言葉と心情はそれぞれ心根に迫るものでした。

「人類よ。戦争を計画してくれるな。原子爆弾というものが存在する以上、戦争は人類の自殺行為にしかならないのだ。戦争をやめた愛の掟に従って相互に助け合い、平和に生きてくれ」



永井 隆・大田みどり  
藤崎あかね



山下サチ  
瀬戸千夏



久松シノ  
森田香子



清水 実  
いわいのふ健



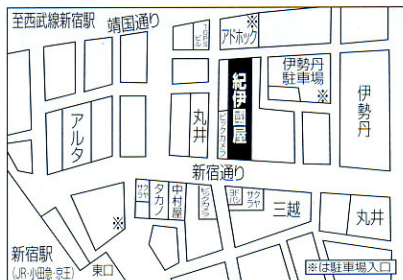
宮園 明  
又吉準之介



働かずの吾一  
今井徳太郎

## チケット取扱い 発売開始 5月3日(月) 全席指定

岡部企画 / ☎044-933-9754 E-mail: nana5years@yahoo.co.jp  
電子チケット / ☎0570-02-9999 (音声認識・Pコード: 403-879)  
ローソンチケット / ☎0570-084-003 (Lコード: 36707)  
☎0570-000-407 (オペレーター対応)  
◎ローソン店内Loppiで直接購入頂けます。  
e+ (イープラス) / http://eee.eplus.co.jp (パソコン&携帯)  
キノチケットカウンター / 店頭販売のみ(10:00~18:30)  
新宿駅東口・紀伊屋書店新宿本店5F



●「新宿」駅東口下車 徒歩5分  
●地下鉄丸の内線・都営新宿線「新宿三丁目」駅下車 B7-B8出口

◆スタッフ  
作・演出 / 岡部耕大  
音楽 / 田上陽一  
美術 / 阿部一郎  
照明プラン / 西尾憲一  
オペレーター / 山本周平  
音響 / 権藤まさか  
衣装 / 松竹衣装  
イラスト / ともぎみ花折  
写真 / 山本悟正  
舞台監督 / 上林英昭  
◆企画・制作 / 岡部企画  
◆協力 / 長崎市永井隆記念館  
NPO法人長崎知己の会

◆お問い合わせ 岡部企画 / ☎044-933-9754  
〒214-0031 神奈川県川崎市多摩区東生田1-12-7  
http://www3.plala.or.jp/koudai/  
E-mail: nana5years@yahoo.co.jp